

連 載

新興国ウォッチ！ <第3回>

為替制度 (3) : 香港のカレンシー・ボード制

多田 忠義

香港ドルと中国人民元との関係

香港がカレンシー・ボード制を採用したのは1983年である。貨幣の発行は、一部を除き、100%米ドル準備金に裏付けられる。香港金融管理局（HKMA）は以前まで為替レートをほぼ1米ドル＝7.8香港ドルに固定していたが、2005年5月から1米ドル＝7.75～7.85香港ドルの間で小幅ながら変動を認めている。

香港は1997年に中国に復帰したものの、同国とは異なる通貨制度・単位を採用してきた。2005年7月に人民元は管理フロート制（通貨バスケット）に移行したため、それまで事実上固定されていた香港ドルと人民元との通貨価値が変動するようになった（図表1）。

香港の為替制度と貿易との関係

カレンシー・ボード制を採用した1983年当時、最大の貿易相手国は米国であったが、2011年には中国本土（香港、マカオを除く地域）が貿易額の約半分を占めるまでに成長した（図表2）。この間、貿易額も右肩上がりに上昇し続けており、1983年に3,361億香港ドルだった貿易額は、2011年に7兆1,018億香港ドルにまで増大した。

対人民元で香港ドル安が続いていることに加え、中国本土により依存する経済となった結果、近年、香港の外貨準備は積み増される一方で、政策金利を下げて為替の安定化を図ろうとしている（図表3）。とはいえ、人民元の経済に対する依存が年々高まるにつれて、人民元ペッグや、米ドル、人民元、日本円、ユーロを

含めた通貨バスケットにペッグするなど、より効果的な為替制度に移行する可能性を指摘する意見もある（金森，2011）。

（次回：アルゼンチンを紹介する予定）

参考文献

金森俊樹（2011）「香港ドルの行方—意義が薄れつつあるカレンシー・ボード制下の米ドルペグ—」国際金融 Vol. 1222, 14-19.

